

#### 4番（小川義昭君）

ありがとうございました。今の作野市長の白山市の将来像、お聞きしました。常に市長が言うておられる市民の目線に立った上で、今おっしゃったことをしっかりと推進していただきたいなというふうに思います。

そして債権管理条例、非常にありがとうございます。大いに期待しております。そして、税収のアップ、どうか平成24年度予算でも図っていただきたいなというふうに思っております。

それでは、2点目の質問、文化という概念、文化に対する認識及び文化創生都市宣言に対する市長の所見をお伺いいたします。

合併後の本市のまちづくりの指針となる10年計画・白山市総合計画「白山みらい創造プラン」は、本年度で前期計画が終了し、来年度、平成24年度から平成29年度までの後期計画へと現在まきに見直しの時期にも当たっております。

目指すべき白山市の形の中に文化力をいかに位置づけるか、文化に対する意識改革と文化行政のあり方を問い、白山市の経済・産業や財政基盤の強化・活性化につなぐ、より踏み出した計画・実行が求められている、こうした問題意識からの質問であり、提言でもあります。

民間人でありました元文化庁長官だった河合隼雄氏（故人）によると、「文化とは、演劇、音楽、映画といった芸術、歴史的建造物、伝統芸能などの文化財ばかりでなく、衣食住、生活様式、価値観など、我々の生活にかかわるすべてが文化であり、同時にそれぞれの文化活動が人々の産業・経済行動を刺激する力である」と指摘しています。まきに、言い得て妙を得たとらえ方ではないでしょうか。私も深く同感する言葉であります。

私は、白山市の文化行政について数度にわたって議会質問を行ってきましたが、その中心的なテーマが、この文化活動が人々の産業・経済行動を刺激する力であるというとらえ方です。白山市総合計画でも霊峰白山、手取川、日本海の豊かな自然と歴史や文化が産業の基盤であり、安心・安全の地域力・民力の源泉であることを強調しています。また、産業・経済の振興は豊かな文化をはぐくみ、まちの魅力を高め、市民の誇りを生み出すことはだれもが認めるところでしょう。

しかし、ここで政策的に重視し、着目・認識すべきは、良質な文化と産業経済は、地域の時代を開く車の両輪だということです。今求められているのは、この両輪性の確認とまちづくり策への展開である、これが私の積年の思いであります。

私は、そうした観点から、平成19年9月議会において、次のように文化創造都市宣言を提言いたしました。合併後の本市にとって、個性豊かで活力あるまちづくりを進めるためには、本市の貴重な文化資源を生かし、文化、産業、観光などと連携、融合した文化行政を推進していく必要がある。そのために、都市宣言を行ってはいかがか。それも単に文化都市宣言ではなく、市民の皆さんが一人一人持っているさまざまな能力や可能性を引き出し、新しいまちづくりを市民参加で進めていくことを目指すために、創造都市という言葉

に新しい付加価値を吹き込み、攻めの戦略を打ち出し、これからの白山市のまちづくりの起爆剤となるための文化創造都市宣言を内外に決意表明してはいかがかと当時の角市長に質問し、提言しました。

角前市長からは、「文化とは生活の質を高めるための人々のさまざまな活動、つまり芸術作品や文化財のような物質的なものから、衣食住や祭り、生活様式など人々の行為、さらには知識や価値観のような精神的なものまで、幅広くおおよそ人間の生活にかかわるものすべてが幾多の時を経て形成されてきたものであり、このように文化は人の心を豊かにするとともに、地域社会のきずなとなるものであり、白山市総合計画の基本理念に掲げる住んでよかった、住み続けたいと思える都市の力、エネルギーとなる。産業やスポーツも文化の中から生まれ、文化が町をつくるといっても過言ではなく、白山市総合計画において、これから10年間の重要課題として各施策を通して市民の文化意識の醸成とその充実に努めたい」さらに、「文化はまちづくりの大きな原動力となり、文化を通じての世界平和の実現もできると思う。文化創造都市宣言というのは、非常に素晴らしいことだと思う。前向きに取り組むことを検討したい」と答弁をいただきました。翌年の平成20年3月に文化創生都市白山宣言が行われたのであります。

そこで質問いたします。

作野市長は、文化というものをどのように御理解されているのでしょうか。また私は、ただいま申し上げましたように、個性豊かで活力あるまちづくりを進めるためには、文化、産業、観光などと連携し、融合した文化政策を一層推進していくべきだと考えますが、市長の考えをお伺いいたします。そして、角市政時代に掲げたこの文化創生都市宣言に基づく政策を推進するに当たって、作野市長の所見をお聞かせください。